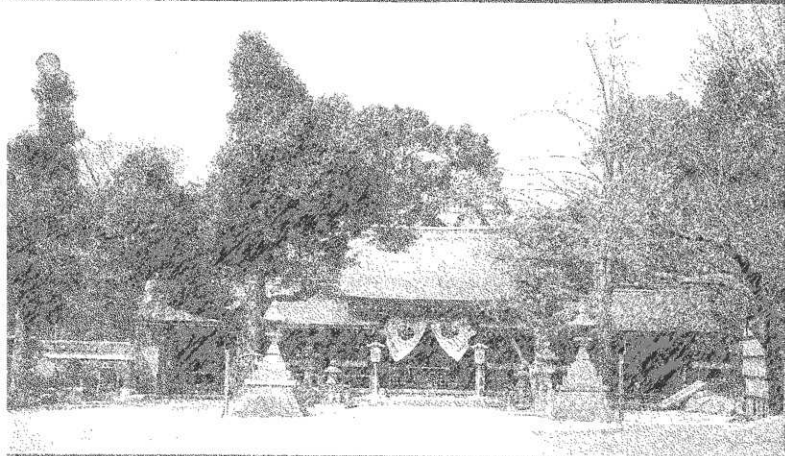


# 曾池遺跡

第2次発掘調査概要報告書



1998

名古屋市教育委員会

- 1 本書は、名古屋市南区呼続4丁目付近に所在する曾池遺跡第2次発掘調査の概要報告書である。
- 2 発掘調査は、呼続4丁目13番の富部神社境内での防災工事（遊常針アース）に伴う事前調査であり、調査区は3箇所（1～3区とした）に分れている。
- 3 発掘対象面積は、3箇所の合計が約21㎡である。調査期間は、平成10年2月16日から2月27日までの間である。
- 4 発掘調査は、名古屋市教育委員会文化財保護室と富部神社との調整を経て、名古屋市見晴台考古資料館（田原和美、水野裕之）が担当した。また、基準点測量および調査中には文化財保護室の竹内守哲学芸員の協力を得た。
- 5 発掘調査および資料の整理に際し、下記の方々からご教示、ご協力をいただいた。記して謝意を表する。  
(順不同)  
尾野善裕・村木 誠・伊藤厚史・種垣美生  
宗教法人富部神社
- 6 調査の記録、出土遺物は、名古屋市見晴台考古資料館が保管している。
- 7 本書の編集、執筆は水野が行なった。



図1 曾池遺跡の位置（5万分の1「名古屋地図」による）

- I 遺跡の概要
- II 調査の概要
  - 1 調査の経過
  - 3 遺構と遺物
  - 2 基本層序
- III 小結  
(表紙の写実は、富部神社祭文職と回廊)  
(平成10年3月17日撮影)

## I 遺跡の概要

曾池遺跡の範囲は、標高12～13mの熟田層からなる台地西端部と、その西側低地にあたる曾池の周辺部におよぶと思われる。

当遺跡は、昭和27年、運動場造成のため曾池南岸の台地を削平した際に発見され、このときは曾池貝塚と呼ばれた。そして、昭和30年にこの低地付近を加賀宜勝氏が、また昭和49年には、三波俊一郎氏が台地西端部を富部神社境内遺跡として調査している。加賀氏の調査地点では、縄文時代晩期、弥生時代後期、古墳時代の堅穴住居跡と遺物が発見されたという。三波氏の地点は、富部神社本殿の西側で、今回の調査箇所と比較的近い。ここでは、古墳時代後期の堅穴住居跡（6世紀代の須恵器出土）、奈良時代と思われる掘立柱建物跡が検出されているほか、包含層等の出土遺物には、7世紀後半から8世紀にかけての須恵器などが出土している。

また、昭和46年には、13～14世紀頃の山茶碗等が出土した中世の井戸跡も検出されている。

そして、各地点の遺跡名をまとめて曾池遺跡としてからの名古屋市教育委員会による発掘調査は、平成7年に神社境内の防火水槽建設に伴う約100㎡の調査がある。その結果、14～15世紀と思われる掘立柱建物跡1棟を検出し、また、同年度の給水管工事立会では、地床が付近のだけの検出であったが、古墳時代中期の堅穴住居跡1基とこれに伴う良好な土師器資料が得られている。

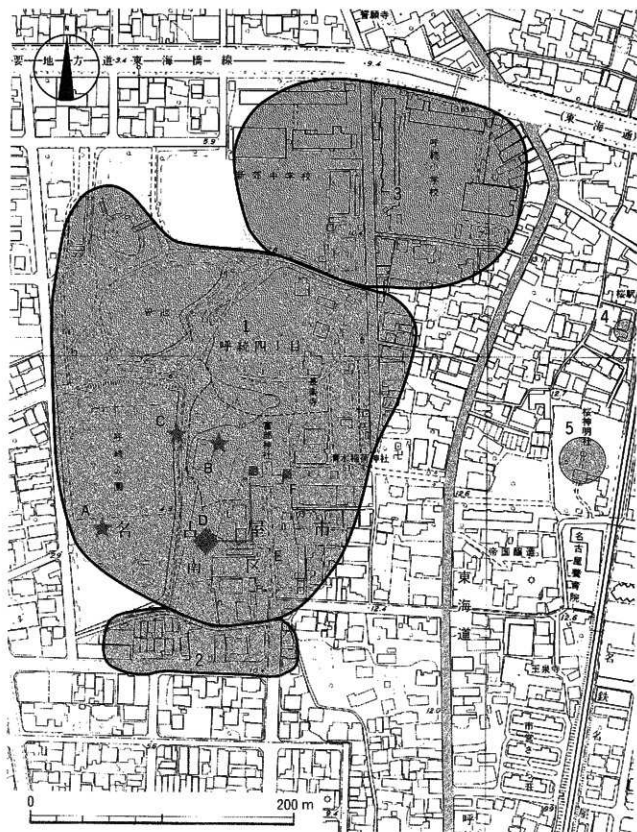


図2 調査地点と遺跡の推定範囲(名古屋市都市計画基本図による)

- |             |              |         |          |
|-------------|--------------|---------|----------|
| A 加賀氏調査地点   | D 1次調査区      | 1 曾池遺跡  | 4 町屋古墳   |
| B 三渡氏調査地点   | E 給水管工事立会調査区 | 2 戸部町遺跡 | 5 桜神明社古墳 |
| C 中世の井戸発見地点 | F 今回の調査区     | 3 呼続遺跡  |          |

## II 調査の概要

### 1 調査の経過

調査区は、富部神社の回廊屋根部分に取り付ける避雷針の位置に伴い東側を1区、西側を2区とした。その他に、回廊西に1㎡の消化栓工事部分(3区)を加えた合計約21㎡を調査した。

調査は、1区から行なったが、1B区については、幅が狭く、地盤までの深さが1mを越えると予想され、十分な調査が困難であるとともに日程も関係することから、工事掘削の及ぶ深さの範囲である近世以降の上層まで調査し、以下の土層は保存することとした。

1、2区では、良好な包含層、遺構の一部が検出されたが、3区は全体が攪乱されていた。

### 2 基本層序

今回の調査地点は、台地上に立地する神社の回廊部分に隣接し、現況は平坦な地形である。基本的な土層の堆積は、1、2区とも表土(2区では、砂利敷層)以下は大きく3層に区分できた。時期は、近世、中世、古墳時代に相当すると思われる。地盤層は台地を形成する熟田層という水成層で、検出面までは現地表から0.6~1mである。



写真1 1区調査前状況(東から)

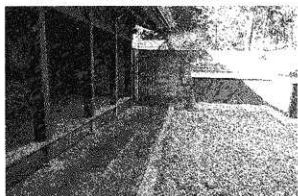


写真2 2区調査前状況(東から)

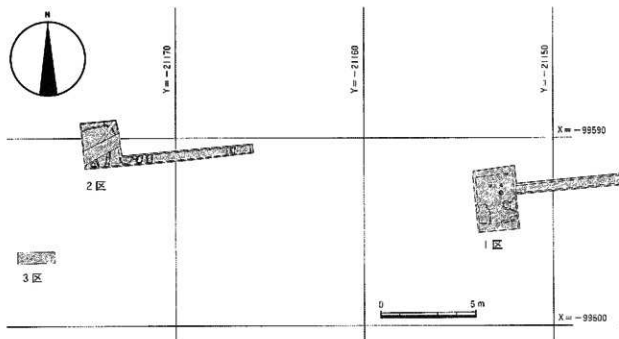


図3 調査区位置図(スケール1/200)

### 3 遺構と遺物

1区 回廊の東端に接する1A区のみ完掘した。調査区に接している回廊は、江戸時代後期以降に一週分足したものであるが、現在ある礎石が乗っている地面は、そのときの整地によると思われる。この層の下からは、地山ブロック土層と非常に固く締った灰色砂質土層が、整地したような状況で検出された。この層からは、16世紀後半頃の陶器片が出土したことから、慶長11年(1606)の本殿創建に伴って回廊付近も整地されたものかもしれ

ないが、さらに時期が降るものか、または別の成因かは、確証がなく不明である。

中世の包含層(図の7層)には、古墳~奈良時代の須恵器片の出土が目立ち古代、中世の陶片は、細片で数も少ない。古墳時代の包含層(図の8層)は須恵器片が多い。

遺構は、地山面でピットが数基検出されたが、中世の遺物が出上したものの(P2、5)以外は、出土遺物がほとんど無い。

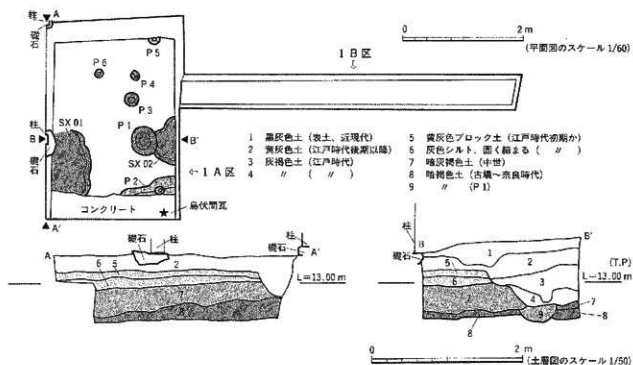


図4 1区平面図および土層断面図

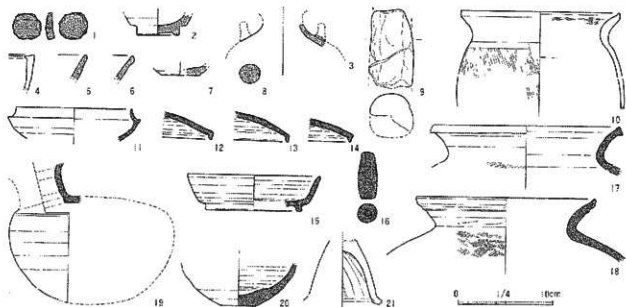


図5 1A区的主要出土遺物

2区 調査区は、木殿と回廊の間にあたり、江戸初期以降、神聖な敷地内であるためか堆積土層は、近世以降の擾乱部分がほとんどない。

2A区と2B区西端では、ピットのほか地山面を数cm～1数cm掘り込んだ遺構の一部が検出された。これらは、竪穴住居が浅等か不明である。遺物は、それぞれ出土量が少ないが、古墳時代後期

の須恵器、土師器片が出土した。

2B区東端部では、竪穴住居跡の一部と思われるSB04を検出した。壁際には周溝があり、床面付近には炭化物片が多かった。壁の掘り込み面は地山面からしか確認できなかったが、土層断面でも図の3層に覆われている状況であった。遺物は、古墳時代前期～中期頃の土師器が出土した。

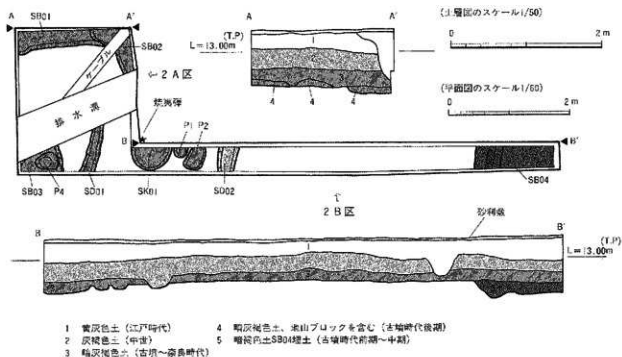


図6 2区 平面図および土層断面図

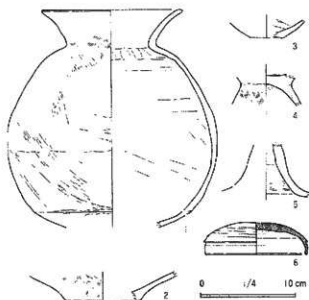


図7 2区の主な出土遺物

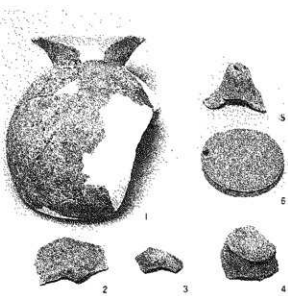


写真3 2区の主な出土遺物

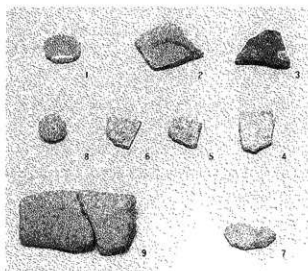


写真4 1A区の主出土遺物(1)

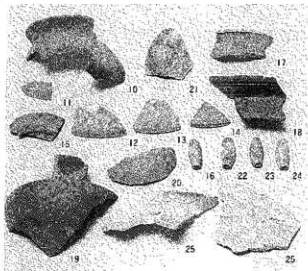


写真5 1A区の主出土遺物(2)

### III 小結

今回の調査区のうち2B区から古墳時代の竪穴住居跡の一部を検出した。付近一帯には、古墳時代の竪穴住居跡等の遺構が存在すると予想される(註1)。また、各区の面積が小さく、調査資料の内容が断片的であって、結論が得にくいという面があったものの、安定した中世～古墳時代の包舎層が検出され、遺跡の残存状態や存続時期を確かめるうえで成果があった。

地下に埋もれた遺跡となっていたこの地に、江戸時代初期に創設された国の重要文化財である本殿と、名古屋市の指定文化財である祭文殿および

表1 1A区掘削調査遺物一覧(番号は、実測図・遺物写真とも共通)

番号	出土場所	種別	器種	備考
1	4層	加工品	土	加工作物(注2)片を複数検出
2	4層	瀬戸式瓦	天目茶碗	白天目茶碗 17C
3	6層	"	瓦付蓋	鉄箱 16C
4	7層	土師器	鉢	
5	7層	古瀬戸	大皿	16C前半
6	"	尾張系山形瓦	瓦	13C
7	7層	"	"	"
8	"	"	陶丸	"
9	"	土製品	土器	中皿か
10	8層	"	蓋	「東海製瓦」7C後半～8C初
11	8層	須恵器	杯	「飯炊堂」H 45号空釜行か
12	8層	"	杯蓋	" O-10号宮
13	"	"	"	" I-25号宮
14	"	"	"	" I-17号宮
15	"	"	杯身	"
16	7層	"	陶罐	"
17	8層	"	瓦	「地蔵瓦」I-45号宮半行か
18	"	"	"	" H 50号宮
19	"	"	空底	"
20	"	"	"	"
21	"	土師器	高杯	3C前半
22	"	須恵器	陶鉢	"
23	"	"	"	"
24	"	"	"	"
25	"	"	礎	地山直上、SX019上
26	表土	瓦	鳥伏間瓦	瓦当の種19→L17時代

表2 2B区掘削調査遺物一覧(番号は、実測図・遺物写真とも共通)

番号	出土場所	種別	器種	備考
1	2B-SB04	土師器	碗	SB04L11E、O調(飯前・中飯)
2	"	"	"	"
3	"	"	滑口壺	SB04床面直下
4	"	"	合付瓦	SB04明溝上L
5	2A-SB02	"	高杯	3C前半
6	"	須恵器	杯蓋	「飯炊堂」H-15号空釜行か
7	2B-1層	埴	埴器	兵37cc、重1.7kg 実測

回廊などがつくられ、以来、富部神社境内として今日まで遺跡が乱開発を受けなかったことで、良好に保存された遺跡となったのであろう。

富部神社関連の遺構は、調査地点内では明確には検出されなかったが、表土層などからは、江戸時代の製品と思われる鳥伏間瓦(註2、写真6)や近代以降の御神酒徳利などの遺物が出土した。また、太平洋戦争時の名古屋空襲によって回廊が被弾したときの焼夷弾の一本(註3、写真7)が、本殿と回廊の間にあたる調査区(2区)からも検出され、周辺とともに本殿も危険な状況にあったことをあらためて浮き彫りにした。



写真6 1区出土鳥伏間瓦

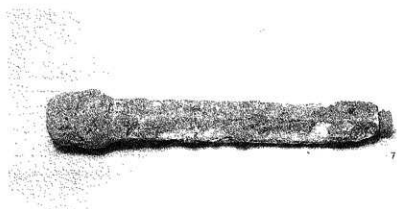


写真7 2区出土焼夷弾

## 報告書抄録

ふりがな	そいけいせき だいじほくつちようさがいようほうこくしょ						
書名	曾池遺跡 第2次発掘調査概要報告書						
編集者名	水野裕之						
編集機関	名古屋市見晴台考古資料館						
所在地	〒457-0026 愛知県名古屋南区見晴町47 TEL 052-823-3200 FAX 052-823-3223						
発行年月日	西暦 1998年3月25日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
曾池遺跡	愛知県名古屋市 南区呼続4丁目 13番	23100 15-17	35度 06分 12秒	136度 56分 05秒	98.2.16 ～ 2.27	21	神社同邸等の防災 工事（避雷針）
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
曾池遺跡	集落跡	古墳～古代 中近世	竪穴住居跡		土師器、須恵器、 陶器		

## 註

- 平成7年の給水管工事立会では、今回の3区に近い地点で竪穴住居跡が検出された。
- 棟端の飾りに使用する瓦。
- 昭和20年5月17日の名古屋空襲のときによると思われる。

## 参考文献

- 村木 誠、竹内宇哲「曾池遺跡発掘調査概要報告書」  
1996 名古屋市教育委員会

曾池遺跡  
第2次発掘調査概要報告書

1998年3月25日

編集 名古屋市見晴台考古資料館  
発行 名古屋市教育委員会  
印刷 樹クイックス